

## 「入院中の小児への遊びの援助」の授業に導入した子育てカレッジ見学演習の教育評価

上山 和子\*・山本 裕子

新見公立大学看護学部

(2016年11月30日受理)

本研究は、小児看護学援助論の授業に導入した子育てカレッジ見学演習の教育評価について明らかにし、今後の演習授業の改善に役立てることを目的とした。研究方法は、質的帰納的研究である。その結果、【子どもとの関わり方】【子どもの遊びの特徴】【子どもの成長発達過程】【子育てカレッジの施設の特徴】【子育てカレッジの役割】の6カテゴリーを抽出した。結果より、学生は、子どもの遊びの特徴や年齢に応じたおもちゃの選択に専門職の保育士から説明を受けることで遊びへの理解が深まり、子どもへの関心度が高まっていることが明らかになった。

(キーワード) 学士課程, 小児看護学援助論, 入院中の小児の遊び, 子育てカレッジ, 教育評価

### I はじめに

小児看護学の授業目的は、主に子どもの健康の維持・増進を学ぶ小児看護学概論、健康問題をもつ子どもの看護を学ぶ小児看護学援助論に大別され、様々な健康レベルに応じた看護について学んでいく。

先行研究では、3～4年次の小児看護学実習に導入した子育てカレッジ実習の教育評価を分析した。その結果、子ども及び保護者との関わりをとおして、子どもの成長過程について学ぶ機会となっていた<sup>1)</sup>。小児看護学実習での子育てカレッジでの効果を踏まえ、前段階にある2年次での小児看護学援助論での活用を検討したいと考えた。

A大学小児看護学は2年次に開講している小児看護学援助論で、健康を障害された小児に対する援助方法について理解することを授業目標として挙げている。その一環である「入院中の小児への遊びの援助」の単元では、子ども本来の遊びの特徴を理解し、安静度に応じた遊び内容を検討する授業を展開している。この授業に子育てカレッジ見学演習を導入し、保育の専門職から子どもの遊びの特徴や発達に応じたおもちゃについて説明を受けることでより遊びの特徴の理解が深まり、その中で入院中の子どものストレス軽減として遊びをとおした具体的な援助方法を考案できると考えた。

本研究では、小児看護学援助論の「入院中の小児への遊びの援助」の単元に導入した子育てカレッジ見学演習の学習成果を明らかにし、今後の教育方法に生かすことを目的とする。

### 1. 研究方法

- 1) 研究デザイン：質的帰納的研究
- 2) 調査対象：2015年度にA大学小児看護学援助論を履修した学生の子育てカレッジ見学実習後のレポート記録で本調査に同意が得られた62名分を対象とした。
- 3) 調査時期：2015年12月
- 4) 調査方法及び分析方法：子育てカレッジ見学演習のレポート記録を内容分析する。分析の過程では妥当性を高めるため、研究者間で繰り返し検討した。
- 5) 倫理的配慮：A大学小児看護学援助論修了後に本研究に関する説明書を配布する。説明の文書には、研究目的、内容分析によるデータ処理、匿名性が完全に確保されていること、成績には関与しないこと、参加は自由意志で拒否による不利益は全くないこと、同意が得られない場合は、データから外すこと、成果について公表することを口頭及び文書で説明した。尚、本研究は、A大学倫理審査委員会の了承（承認番号：106）を受け実施した。

### II. A大学小児看護学援助論子育てカレッジ見学演習の概要と事例を用いた遊びの援助

A大学では学内に子育てカレッジが開設されており、常時子育て支援を専門とした職員からの支援を受けている<sup>2)</sup>。A大学小児看護学は2年次に開講している小児看護学援助論で、健康を障害された小児に対する援助方法について理解することを授業目標として挙げている。その一環である「入院中の小児への遊びの援助」の単元では、子ども本来の遊びの特徴を理解し、安静度に応じた遊び内容を検

\*連絡先：上山和子 新見公立大学看護学部 718-8585 新見市西方1263-2

討する授業に子育てカレッジ見学演習を導入し、専門職の保育士から子どもの遊びの特徴や色や形など発達に応じたおもちゃについて説明を受けることで、より遊びの特徴の理解が深まり、具体的な援助方法を考案できることを目的している。子育てカレッジの見学は、1グループの見学時間をおもちゃの説明、子どもとの関わりを含めて約30分とし、2年次生を3グループに分けて実施した。

この見学演習をもとに入院中に行動制限を受ける事例として「2歳児のネフローゼ症候群」を取り上げた。発達年齢を2歳児に設定したのは、2語文が話せることや遊びの欲求が伝えられることである。また、子育てカレッジに比較的来所が多く、遊び場を学生が見学可能と思われる年齢とした。疾患は、治療として安静が必要とされる代表的疾患として「ネフローゼ症候群」の回復期とした。学生は、予めネフローゼ症候群に関する基礎的知識として治療、看護

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>子育てカレッジで使われている発達年代別のおもちゃ、絵本の実際を知り、入院児に必要な遊びの意義、遊びの特徴を学ぶ。</li> </ul>
授業	<ul style="list-style-type: none"> <li>行動制限が必要な小児の看護の特徴を理解する。</li> <li>事例紹介:2歳児のネフローゼ症候群の回復期の男児の事例を用いて必要な遊びを理解する。</li> </ul>
子育てカレッジ 見学	<ul style="list-style-type: none"> <li>子育てカレッジを見学。保育士より、絵本や積み木など子どもの年齢に沿った遊びについて説明を受ける。</li> </ul>
グループワーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>子育てカレッジ見学後、事例に沿った遊びを検討する。</li> <li>遊びカードを発表する。</li> </ul>

図1. 子育てカレッジ見学演習の概要

表1. 2歳児のネフローゼ症候群の男児

- ・2～3日前から食欲がなくなり、一回の排尿量が少ないことと目の腫れに気づき、
- ・受診後、ネフローゼ症候群と診断された。
- ・入院後、①安静療法(ベッド上の生活)、②薬物療法(プレドニン)、③食事療法が開始となった。
- ・尿量も増加し、目の腫脹も軽減し、
- ・室内歩行は可能となった。

表2-1. 遊びカードの紹介1

G	遊びの名称	ねらい	安静度
1	絵本とツリーの のかざり	季節感を感じる	安静を保持しながら遊ぶことができる
2	食べ物 絵合わせ	<ul style="list-style-type: none"> <li>言葉への関心を深める</li> <li>食べ物を理解する</li> </ul>	座位で過ごすことができる
3	ぶーぶー パズル	<ul style="list-style-type: none"> <li>つかんではめることで運動機能の発達に繋がる</li> <li>男の子が好きな車の絵を完成させる</li> </ul>	ベッド上でオーバートーブルを用いて行える
4	はめ込み ブロック	創作意欲を伸ばす	ベッド上で座って遊ぶことができる

表2-2. 遊びカードの紹介2

G	遊びの名称	ねらい	安静度
5	車のぬり絵	発達段階に応じた遊びを提供する	ベッド上でも可能である。
6	紙芝居の 読み聞かせ	昔話を聞いて心を豊かにする	座ったままで楽しめる
7	指人形で動物園に行こう	コミュニケーションがとれる	ベッド上で安静に行える
8	動物の ぬり絵	手指の微細運動の発達を促す	上半身で行える

援助について学修し、見学演習に臨んだ。

さらに見学演習後のグループワークでは、安静を保持しながら遊べる内容を具体的に表す名称を考案しながら、季節感も取り入れた遊びカードの提供を検討した。

(図1, 表1, 表2-1, 2-2)。

### III. 結果

レポート記録を分析の結果、【子どもとの関わり方】【子どもの成長発達過程】【子どもの遊びの特徴】【子育てカレッジの施設の特徴】【子育てカレッジの役割】【子どもへの関心度】の6カテゴリー、17サブカテゴリー、407コードで構成されていた(表3-1, 3-2)。

以下、【 】カテゴリー、「 」サブカテゴリー、< >コードで示す。

#### 1. 【子どもとの関わり方】

【子どもとの関わり方】では、「子どもとの距離の持ち方」で<最初人見知りをしていた子でも少しずつ近づけば慣れてくる>、「子どもの恐怖心を軽減する関わり方」で<子どもと話すときは、子どもの視線の高さに合わせることで子どもの恐怖心をなくすことができる>、「子どもとのコミュニケーションの取り方」で<おもちゃの遊び方を教えてあげることで、コミュニケーションがとりやすいことを学んだ>などおもちゃをとおした子どもとの関わり方を学んでいた。

#### 2. 【子どもの成長発達過程】

【子どもの成長発達過程】では、「年齢別発達の特徴」で<2歳ぐらいになると、意外と物をつかんだり細やかな作業ができる>、「成長発達に必要なしつけ」で<きちんといただきますから、ごちそうさままで言えており、食べた後は後片付けもきちんとできていた>、「身体・運動機能の発達の特徴」で<双子でも体の大きさの違い、2人とも走ったりと元気良かった>、「精神・社会的発達の特徴」で<母親にくっついて、母親に安心を求めている感じがした>など、実際に関わることにより運動機能などの成長過程を学んでいた。

表 3-1. 子育てカレッジ見学の学びの内容 (1)

(コード件数)

カテゴリー	サブカテゴリー	代表的なコード
子どもとの関わり方	子どもとの距離の持ち方(20)	・最初人見知りをしていて子どもでも少しずつ近づけば慣れてくる。 ・年齢が低くなるほど、優しさを持って接するのが大切だと思った。
	子どもとの恐怖心を軽減する関わり方(10)	・子どもと話すときは、子どもの視線の高さに合わせることで子どもの恐怖心をなくすることができる。 ・絵本を見せて遊びに誘うとちよつと近づいてきてくれる。
	子どもとのコミュニケーションの取り方(30)	・おもちゃの遊び方を教えてあげることで、コミュニケーションがとりやすいことも学びました。 ・子どもが信頼しているお母さんと話して自分に危険を加える人ではないということを理解してもらったことが大切だと分かった。
子どもの成長発達過程	年齢別発達の特徴(39)	・2歳ぐらになると、意外と物をつかんだり細かい作業もできるようであった。 ・今回の子育てカレッジの見学で乳児に比べ幼児のほうが感情豊かに多くのものを表現しようとしている気がした。
	成長発達に必要なしつけ(15)	・きちんといただきますからごちそうさまで言えており、食べた後は後片付けもきちんとできていた。 ・「片付けてから行こうか」とお母さんらしい方が言うところ、きちんと片付ける。
	身体・運動機能の発達の特徴(6)	・2歳の双子の男の子は双子でも体の大きさが違い、2人ともよく走り回ったり、歌ったりと元気が仲良かった。 ・年齢があがるにつれて活発になっており元気が良かった。
	精神・社会的発達の特徴(23)	・母親にくっついて、母親に安心を求めている感じがした。 ・子育てカレッジに来ていた乳児が泣いていると近くにいた幼児が顔をなでたりとなぐさめていたので、心の発達も見受けることができた。
子どもの遊びの特徴	発達に応じた遊び(70)	・2歳児の子どもは一人遊びをする子どもが多かった ・男の子は電車のおもちゃ、女の子はおままごとのおもちゃで遊んでいた。
	絵本の魅力(9)	・本も乗り物の本を探して、絵や写真を見て、喜んでた。 ・空想と現実の区別がつかない時期であり、ファンタジーのような本を好み、想像力の発達を促すために大切である。
	年齢に応じたおもちゃの特徴(50)j	・天井にはモビールなど様々な装飾がなされていたが、そうした動きがあるものやオルゴール、がらがらなど音のするものに興味をひきつけられている ・おもちゃは1歳の子は音が出るものに興味を持っていてひたすら同じおもちゃで遊んでいた。
	手作りおもちゃの特徴(15)k	・手作りのおもちゃが多く、牛乳パックやペットボトルで作られている物が多く、人形など消毒のしにくいおもちゃは少なかった。 ・ビーズを入れたオモチャよりも、鈴の音の鳴るオモチャに注目していたので、小児の実習でオモチャをつくる機会があれば、鈴の入ったものをつくりたい。

表 3-2. 子育てカレッジ見学の学びの内容 (2)

( )コード件数

カテゴリー	サブカテゴリー	主なコード
子育てカレッジの施設の特徴	子どもの特性を踏まえた施設の特徴(55)	・トイレには簡易的な風呂場があったり、トイレの個室は大人が上から見られるような造りになっていた。 ・手洗い場も、子どもの身長に合った高さで設置してあった。
	感染予防対策(10)	・提供する側は、衛生面でも安心できる環境をつくるのが大切だと知った。 ・床に寝転んでいたり、おもちゃを口に入れたりして、子どものいる環境では清潔が大切だと思った。
子育てカレッジの役割	母親に対する相談機能としての役割(8)	・お母さんたちの相談の場となっている ・お母さん同士で話して、相談事などもできるので、親子どちらにとっても、いい場所だなと思った。
	地域における子育て支援としての役割(9)	・お母さんたちと子供たちの交流の場であり、とても大切な役割をもつ場だと感じた。 ・子育てカレッジは、同じくらいの年齢の子どもたちの母親が集まって子育ての不安や息抜きとなっていると感じた。
学生の子どもへの関心度	子どもに対する思いの肯定的変化(35)	・普段、小さな子供と関わる機会が少ないので、いい場であつたし、私自身もとてもいざやされて楽しい時間だった。 ・子どもと触れ合えて、コミュニケーション方法にとまどつたが、学べることも多く、子どもに対する気持ちも少し軽くなったように思う。
	子育てカレッジ実習に対する期待(3)	・来年の実習では、もっと子どもと関わりたい。 ・今回の見学で、子どもに対する関心が深まり、機会があれば、子育てカレッジに顔を出したいと思う。

### 3. 【子どもの遊びの特徴】

【子どもの遊びの特徴】では、「発達に応じた遊び」で<2歳児の子どもは一人遊びをする子どもが多かった>、「絵本の魅力」で<乗り物の本を探して、絵や写真を見て喜んでた>、「年齢に応じたおもちゃの特徴」で<天井にはモビールなど様々な装飾がされており、音のするものに興味をもってた>、「手作りおもちゃの特徴」で<手作りおもちゃが多く、牛乳パックやペットボトルで作られていた>など、子育てカレッジに置かれているおもちゃの特徴を学んでいた。

### 4. 【子育てカレッジの施設の特徴】

【子育てカレッジの施設の特徴】では、「子どもの特性

を踏まえた施設の特徴」で<トイレの個室は上から大人が見られる造りになっていた>、「感染予防対策」で<提供する側は、衛生面でも安心できる環境をつくるのが大切だと思った>など、子どもが過ごす環境に関心を寄せていた。

### 5. 【子育てカレッジの役割】

【子育てカレッジの役割】では、「母親に対する相談機能としての役割」で<母親の相談の場になっている>、「地域における子育て支援としての役割」で<母親と子どもたちの交流の場であり、とても大きな役割の場と感じた>など子育て機能の役割を学んでいた。

## 6. 【学生の子どもへの関心度】

【学生の子どもへの関心度】では、「子どもに対する思いの肯定的変化」で<普段子どもと関わる機会が少ないので、良い体験の場となり、癒された>、「子育てカレッジ実習に対する期待」で<来年の実習では、もっと子どもと関わりたい>など子どもへの関心度が高まっていた。

## IV. 考察

### 1. 小児看護学援助論の「入院中の小児への遊びの援助」の

単元に取り入れた子育てカレッジ見学演習の教育評価

小児看護学援助論の「入院中の小児への遊びの援助」の単元に子育てカレッジ見学演習を導入し分析した結果、

【子どもとの関わり方】【子どもの成長発達過程】【子どもの遊びの特徴】の子どもの成長発達に伴う捉え方と【子育てカレッジの施設の特徴】【子育てカレッジの役割】【子どもへの関心度】の子育てカレッジの有効性の大きく2つ視点から捉えていた。

看護学科2年次生の子どもへの関わりの機会は、ボランティア活動など各自の活動などにより経験値にかなり差がある。見学演習の時間は、30分程度の短時間であるが、その中でも人見知りへの関わり方など具体的に学ぶ機会になっている。さらに子どもと共に動くことで活動性などの運動機能の発達過程や個人差の違いを学んでいる。

子育てカレッジで発達年齢に応じたおもちゃの特徴を学ぶことは、置かれている手作りおもちゃ、市販のおもちゃだけでなく日常の中で身の回りの物を使って工夫するなど、子どもの生活とおもちゃとの関係を考える機会となっている。このことは、おもちゃをとおして子どもにとっての遊びの意義を学ぶ機会になり、子ども本来の生活の中で遊びは切り離せない存在として、子どもの支援を考える中では、常に意識して関わることを学んだと考える。特に専門職の保育士からおもちゃの説明として、形や色、大きさなど具体的に学ぶ意義は大きいと考える。また、絵本などは、安静が必要な子どもに用いられる遊びの代表的なものである。年齢に応じた絵本の提供は、グループワークの討論の中でも子ども理解の参考となり、遊びカードにも取り上げられている。

さらに2年次に子育てカレッジを見学することは、次年度の領域実習の準備になり、事前に子育てカレッジの意義について理解する機会になるとともに、小児保健の課題である成長発達への支援について具体的に知る機会になったと考える。

### 2. 行動制限を受けている子どもの事例と子育てカレッジ見学演習の効果

本研究では、遊び・おもちゃの捉え方、行動制限のある子どもへの援助の観点からの分析であった。小児看護学援

助論は、主に健康障害をもつ子どもの看護である。そのため、医療的援助に偏るが、小児看護学においては子どもの成長発達の観点から支援を考えていく必要がある。このことは、看護問題を取り上げる時、入院中の子どもは事例によっては、行動制限を強いられて入院生活を送ることも多く、自由に動けないことでストレスが生じ支援が必要となる<sup>3) 4)</sup>。そこで、医療的支援だけでなく、療養生活を安楽に過ごす一つの支援として遊びは密着しており、成長発達とストレス軽減の2つの視点を持ちながら看護援助を考えていく必要がある<sup>5)</sup>。小児看護学援助論では、医療的支援を中心に学んでいくも、常に成長発達過程にある子どもにとっては、遊びをとおした観点からの支援が求められる。健康な子どもの場合、自由に遊ぶことで創造性を育てていく。入院中の子どもの場合、入院という非日常的環境の中で生活を送ることは、少なからず制限を強いられる。また、今回の事例のように疾病的にベッド上での生活が中心となる場合、限られた空間の中で遊び内容を検討する必要がある。そのため、ブロック遊びなど活動性が少ないながらも子どもの興味を引く遊びの特徴について保育士より説明を聞き、実際のおもちゃに触れる体験ができたことは、子どもにとっての遊びの意義を理解する上で有効であったと考える。子どもにとって遊びは、創造性を育むだけでなく、現在の精神状態を遊びに表現する場合もある。入院中の遊びの援助は、遊び場面を通して入院によるストレスを早期に発見して介入する一つの看護援助の役割をもち、小児看護の特徴でもある。

今回、入院中の子どもの遊びの意義を学ぶ単元の中に、遊びの特徴や年齢に応じたおもちゃの選択に専門職の保育士からの説明をとおして、発達年齢と遊びとの関係を意識することで、より2歳児ネフローゼ症候群の遊びへの理解が深まり、季節感を取り入れたベッド上で遊べる手遊びを中心とする内容を検討することができたと考える。さらに体験的に学ぶことは、より子どもへの関心度が高まっており、3年次に始める小児看護学実習への関心も強まっていることが明らかとなった。

今後の課題として、2年次に導入した子育てカレッジ見学演習の小児看護学実習への有効性について検討していきたい。

## 謝辞

本研究にご協力をいただいたA大学看護学部の学生に感謝致します。

## 文献

- 1) 上山和子・山本裕子：子育てカレッジを活用した小児看護学実習の教育評価と課題，新見公立大学紀要，36，

- 149-152, 2015.
- 2) 三好年江・片山啓子：大学と地域が協働する子育て支援者研修の成果と課題－「にいみ子育てカレッジ」2013年度の取り組みより－. 新見公立大学紀要, 35, 149-152, 2014.
- 3) 日本小児科学会・日本小児保健協会・日本小児科医学会・日本「小児科連絡協議会ワーキンググループ」：子育て支援ハンドブック. 144-170, 2011.
- 4) 宮谷恵, 大見サキエ, 宮城島恭子：教員からみた学士課程における小児看護学実習の現状. 日本小児看護学会誌, 22(2), 68-74, 2013.
- 5) 竹田佳子：病気や障がいをもつ子どもとストレス. 小児看護, 37 (7), 790-796, 2014.

**The educational evaluation of visting exercises at the child-rearing college introduced in curriculum of support for children in hospitalization**

Kazuko Ueyama, Yuko Yamamoto

Department of Nursing, Niimi College, 1263-2 Nishigata, Niimi, Okayama718-8585,Japan